

## 1. 評価報告概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4075500696
法人名	有限会社 ケア・ポート ヒロタ
事業所名	グループホーム サルビア
所在地	福岡県宮若市宮田41-5 (電話)0949-32-1300

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年10月31日	評価確定日	平成21年11月17日

### 【情報提供項目より】(21年10月19日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	25人	常勤	13人, 非常勤 12人, 常勤換算 10.58人

#### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階建ての	1階～	2階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	16,000円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	550円	おやつ	100円

#### (4) 利用者の概要(10月19日現在)

登録人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	7	要介護2	5		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 85.5歳	最低	74歳	最高	100歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	安倍医院、原三信病院、中村病院、ひろた消化器内科クリニック、大林歯科医院
---------	--------------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

二階建て2ユニットのグループホームサルビアは、頻繁に人や車の往来がある商店街に面し、玄関前の花壇には名称のサルビアの花が咲く瀟洒な造りのホームである。家庭的な環境の中で、協力医療機関との連携や管理者の親族である医師の協力などで医療面のバックアップが充実しており、入居者や家族に安心・安全を提供している。また、栄養士、歯科衛生士、看護師など多職種の職員がそれぞれの専門分野を活かしたケアに取り組んでいる。今年には家族会で感冒防止の取組みである口腔ケアについて実際に家族に行ってもらったり、GHみやわかで実践報告会を行っている。管理者は職員を育てる重要性を認識し、勤務時間内の研修参加を支援したり、社会保険の整備で介護労働事業所としての基盤を整備している。職員は、資格取得など目的を持って介護職に就労し生き生きと入居者と関わったり、今年職員が参加したレクリエーション研修内容を日々実践することで、暮らしに張りのある生活を支援している。市内のグループホーム11事業所と相互の情報交換や研鑽の場として発足した「GHみやわか」は、地域包括支援センターを中心に徘徊ネットワークに取り組んだり、地域のケアマネージャーとの交流会や勉強会など同業者を通じた交流が盛んに行われている。老人会の加入はないが、自治会・商工会の参加や活動、近隣住民と交わす日常の挨拶や交流から、地域の住民として認められ、頼りにされていると感じるようになり、地域密着型サービスとして住み慣れた地域で周知されつつある。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を活かし、口腔ケアの実践報告を地域のグループホームの勉強会で行ったり、権利擁護の研修会の参加など具体的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、各ユニットごとに各職員が意見を記入し、全職員が意見を出せるように取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議に関する規定を整備し、記録も整備されている。2ヶ月ごとに適切なメンバーで開催し外部評価結果の報告や状況報告、水害時の避難の実施報告や離園事故防止の取り組みなど具体的な話し合いをしている。運営推進会議の開催方法も食事の時間帯に行い、実際に食べてもらい情報を共有するなど工夫している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	3ヶ月ごとのホーム便りで行事やホームの状況を知らせている。日々の暮らしぶりや職員異動などの報告は、誕生会、敬老会などの行事の際や家族の訪問時に行っている。金銭出納簿は毎月家族にホーム便りと一緒に郵送し、訪問時確認印をもらっている。成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等のパンフレットの整備し、入居初期に説明をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会、商工会に参加し地域住民と活動している。福引や盆踊りなど地域の行事に積極的に参加することで顔見知りの関係ができて、管理者は地域住民のほうから声をかけてくれることが増え、「地域住民となった。」と話している。今年には子供のエアロビクスのサークルの訪問があり、ダンスに入居者も活力をもらい、お互いに楽しいひと時が過ごせている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定・重要事項説明書、契約書に地域密着型サービスの方針として「地域との交流の下・・・」を記載し、「住み慣れた地域の中でこちよく暮らせるグループホームを目指します。家庭的な雰囲気の中、我が家のように和やかに暮らせるようお手伝いをします」という理念を玄関やリビングの見えやすいところに掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に理念をミーティング・会議・入社時オリエンテーションなど機会あるごとに話している。職員一人一人が小型のカード方式で常時理念を携帯し、地域の住民との交流などが地域密着型サービスの実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・商工会にも加入し、地域の住人との信頼関係を築いている。福引や盆踊り、祭りに積極的に参加することで交流を深め、顔見知りの関係が出来ている。今年にはエアロビクスを習っている子供サークルの訪問があり、子供達もまた遊びに来たいと話するなどダンスに入居者も活力をもらい、お互いに楽しいひと時が過ごせた。ホームの連絡網に隣人の電話番号も記載し、地域住民にも配布している。管理者は最近近隣住人からの声かけが増え、「私も地域住民になっている」と話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、各ユニットごとに各職員が意見を記入し、全職員が意見を出せるように取り組んでいる。職員は自己評価を行うことで日頃のケアの振り返りができ、口腔ケアの意義など再確認してる。前回の外部評価結果を活かし、GHみやわかを活用し、介護予防の口腔ケアの実践報告や権利擁護の研修会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関する規程を整備し、2ヶ月ごと開催し議事録も整備されている。適切なメンバーで外部評価結果の報告や定期的な状況報告、水害時の避難の実践報告や離園事故防止の取り組みについて話し、推進会議のメンバーから安全パトロールの危険箇所を教えてもらい外出に役立てている。開催時間に食事を実際に食してもらうなどし、趣向を変えて積極的に参加してもらえる様に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム11事業所と「GHみやわか」を発足し、市職員も研修会や福祉祭りに参加している。今年から地域の居宅のケアマネージャーの勉強会にグループホームのケアマネージャーも参加できる様になり、地域包括支援センターを中心に徘徊ネットワーク作りに取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等のパンフレットを整備している。入居初期に成年後見制度について説明をしている。地域のグループホームで権利擁護の研修会を開催し参加している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月ごとのホーム便りで行事やホームの状況を知らせている。日々の暮らしぶりや職員異動などの報告は、誕生会、敬老会などの行事の際や家族の訪問時に行っている。体調の変化の際は家族に連絡を取り、記録を整備している。金銭出納簿はホーム便りと一緒に毎月家族に郵送し、訪問時確認印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、意見交換できる様にしている。今年は家族会の趣向を凝らし、口腔ケアを行ってもらい肺炎防止に努めていることを報告している。ホーム内に目安箱を設置しているが、投書はない。要望や意見は個別に対応している。運営推進会議で家族の意見が多く得られるように、家族が交代で参加している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にストレスが生じないように数ヶ月に一回職員の異動を行い、入居者と職員のなじみの関係を作っている。離職者を最小限にするために、研修の参加や職員との話し合いを行っている。新規採用者と指導係を配置し、異動のダメージのないように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の採用は老若男女の区別はなく、ハローワークや職員の紹介で採用している。定年は70歳としている。採用時初回の面談は管理者が行わず、現場従事者が一緒に働く者の視点で面談を行っている。雇用契約書・服務規程・就業規則を整備し、研修会には参加できる様に勤務を調整したり、職員の休憩場所が確保されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権パンフレット、身体拘束虐待防止マニュアルも整備されている。「身体拘束をせずに介護を行う為のチェックリスト」を作成し、高齢者虐待防止研修に参加している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県高齢者グループホーム協議会主催の研修やGHみやわかの研修会が盛んに行われており、勤務時間内に参加できる様に調整している。新任・現任の年間研修計画も立てられ、計画的に人材育成に取り組んでいる。事務長や管理者が職員の悩みごとの相談を受けている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入している。また市内11ヶ所のグループホームで「GHみやわか」を発足し、意見や情報交換ができる研鑽の場を設け、サービスの質の向上に努めている。新人同士の交流会も行われている。近隣の福祉用具事業所とも交流があり情報交換が行われるようになった。呼びかけがあった市のケアマネージャー交流会にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望がある場合は管理者や介護支援専門員が自宅や入院先に訪問したり、家族と一緒に見学をしていただき安心して入居していただける様に支援している。体験入居の仕組みもある。入居時は情報を多く収集し、安心して入居できる様に関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の戦争の苦労話や子育ての話に新鮮さを感じたり、日々のテレビでの懐メロや時代劇などに興味を持つようになり、生活の中でバリエーションが広がり楽しみが増えたと感じている。紙芝居をすると入居者が食い入るように聞き入ってくれ、思わず熱弁をふるってしまうことがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が重度化し、日々の意向や希望の変化があるが日々の表情や言動の変化を気にかけており、思いに応えるようにしている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を収集し、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向を聞き取り、健康状態や生活歴・生活習慣を配慮し、看護師や歯科衛生士、栄養士、介護福祉士など多職種共同で、介護計画を作成している。担当者会議に家族が参加している。計画書に入居者、家族の署名捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごと、また入居者の状態が変化したときに見直しが行われている。モニタリングも定期的に行われ、本人、家族の意向も取り入れ職員と話し合いながら計画を見直している。見直しの後、介護計画書第一表の書き直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の墓参りや寺院の訪問、以前居住していた地域の老人会の参加など、出かけたところがあれば個別に対応するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診は、主治医からの説明が家族に直接行われるように、家族に受診同行をお願いしている。訪問診療は月2回行われている。協力医療機関の受診記録を整備し、検査結果を家族へ郵送している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針を整備し、入居時に説明し記録も整備している。独自の緊急時の医療機関への搬送、処置についての取り決めを作成している。新型インフルエンザ対策マニュアルを作成している。管理者の親族である医師や看護職員と24時間連絡がとれるので、助言・相談等で情報を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程や利用目的を明記した書面を整備し、入居者・家族に説明や配布をしたり、事業所内に掲示している。個人情報利用目的を記載したファイルがあり、研修実施記録もある。就業規則に守秘義務・プライバシー保護規程の遵守を明記している。入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や就寝時間、食事の時間などは個別に対応するようにしている。一人ひとりの体調に配慮しながら、買物や散歩に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや食器洗い、茶碗拭きなどできる事を協力しながら行っている。左手しか使えない入居者には滑り止めマットを使用し、自分で食べる楽しさが得られるように工夫している。入居者の希望メニューも取り入れ、職員も共に食事を楽しんだり、管理者が季節の食材を調達し、食事を通じて四季を楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望があれば、午前・午後の入浴は自由で、夕方入浴する入居者や夜間毎日見守り程度で半身浴を行っている入居者もいる。入浴を拒否する入居者には無理強いをせずに着替えを手伝うアプローチを工夫したり、清拭や足浴をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に本人や家族から得た情報で、習字・買物・外食・囲碁・将棋等を支援をしている。運動公園などにドライブに出かけたり、地域の行事の敬老会に参加したり、利用者と相談しながら楽しみごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の健康状態・気候等に応じて、近くの散歩だけでなく行きたい場所やその人の馴染みの店や歩行困難な方にはドライブをしている。ホームの近くにある神社への散歩や、商店街の中にある馴染みの店での衣類・日用品の買物では昔話に花が咲いている。またスーパーでの買物やレストランでいただくぜんざいはお気に入りの一品である。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	商店街に位置し頻繁に人や車の往来があるので、各階の出入りに出入りが音で分かるようにセンサーを取り付け、保安のため20時から翌朝6時は施錠している。防災用顔写真入りアルバムと行方不明者検索マニュアルを作成している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時用地震・水害・台風・火災マニュアルや急時連絡一覧表の整備、消火器や緊急時備蓄を整備し、消防訓練も実施している。近隣の交番の巡視も行われている。救急処置の研修会に参加し、AEDの使い方等を学んでいる。今年の集中豪雨時は自主的に協力機関に呼びかけ避難し、入居者の安全を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が一日の摂取カロリーや栄養のバランスを考慮し、献立を立てている。嚥下や咀嚼にあわせてキザミにしたり、スプーンやフォークを利用したり、滑り止めマットを活用しなるべく自分で食事を摂取できるように工夫している。一日の水分量も定時で摂取する以外は記録し一日1500ml摂取している。月初め、入浴時に体重測定を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サルビアの花咲く開放的な玄関から共用空間の壁は明るい色調に統一され、観葉植物や生花が生けてあったり、季節に合った調度品が飾られ、採光の調整や窓の開閉も行われている。入居者が多くの時間を過ごす共用空間は、テレビ・ソファや畳の上がり座敷があり、心地よい音楽が流れるなど居心地良く安心して過ごせる安らぎのある場所となっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、たんすや椅子以外にも仏壇や鏡台などが持ちこまれており、家族の集合写真が飾られ、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。入居者の申し出があれば畳も利用できる様に準備している。		